



地域とともにつなぎあい
患者とともに歩む医療

病院だより

第148号
2023/5/15

「病院の質」は「病院職員の質」

今春、看護師6名、看護補助者1名、リハビリ療法士8名、事務職員3名、合わせて18名の新入職員を新しい仲間として迎えることができました。

当院は昭和57年、1982年に、ここ大津市御殿浜に開設し、40年の歴史を刻んできました。この間、移り変わる医療環境の変化に対応しつつ、5年前に、回復期リハビリテーション病院への全面的な医療機能の転換を行い今日に至っています。しかしながら、3年前に発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は当院をも巻き込み、院内クラスターの発生も重なり、その対応に追われる時期が繰り返し襲いました。今日、ようやく出口が見えてきましたが、決して気を緩めることなく、引き続き感染対策に留意し、安全、安心の医療の提供に日々努力していきたいと思えます。

一方、このような状況にはありましたが、当院の将来に向けての病院づくりにも努めてきました。昨年には新しいリハビリテーションセンターの稼働、リハビリ機器の整備と充実、屋上リハビリ庭園の造設等を行い、当院のリハビリテーションの質をさらに高めるための新たなスタートを切るとともに、病院の名称を「琵琶湖中央リハビリテーション病院」に変更しました。また日本医療機能評価機構による、リハビリテ

ーション病院の高度・専門機能にかかる病院機能を審査していただき、その判定結果を現在待っている状況ですが、病院の質を高めるため今後も職員一同、引き続き取り組んでまいり所存です。

当院は更なる次のステージに向かい、地域からよりいっそう信頼される病院づくりをこれからも進めますが、その原動力は全職員のチームワークです。「病院の質」は、「病院職員の質」です。職員一同、自己研鑽を積み重ね、プロフェッショナルとしての技術を磨き、病院の発展にそれぞれの職場で尽力していきます。

理事長 坂口 昇



Photo by 甲斐 孝順

病棟からこんにちは ③



病院(病棟)の壁なんて、殺風景なものです。入院して気分が沈んでいるような状況ならば尚の事

そう感じるかもしれません。各病棟では趣向を凝らし、患者さんの息抜きになる様々な工夫もしています。

2B病棟では、患者さんやスタッフ手作りの素敵なアートを楽しめる空間が作られています。手先が器用で細かい作業の得意な患者さんが多くおられ、それぞれが折り紙や花紙等を使って作品を作り、スタッフが一つの作品に配置して廊下の数か所に展示しています。花の茎や、鯉のぼりの紐・ポールの細部まで患者さん

目と心を和ませる折り紙アート

が作成されたという渾身の作。完成度の高さに見る人を圧倒します。引き込まれる作品の数々に、病棟の患者さんからは「わぁ、きれい」と感嘆の声が上がることも。それぞれが心を込めて作った作品が他の作品と一つになって、眺めている人が思い思いのストーリーを乗せていくうちに、殺風景な壁はいつしかちょっとした美術館の様になって皆の心を和ませています。今日も満開の花が咲き、鯉のぼりが高くたなびいています。



あなたの「一歩」に尽力します

～理学療法士の仕事～



理学療法士は、リハビリテーションチームの一員で身体機能障害を持つ患者さんの立つ・歩くといった基本的な動作ができるように身体の機能回復を支援する医療専門職です。その仕事は医師や看護師等と密接に連携して行われ、患者さんの身体症状を評価しチームで相談しながら、その方に合わせたリハビリテーションプランを作成します。

理学療法には、患者さんの状態に応じて様々な種類があります。例えば、脳卒中や骨折等で身体機能に障害を抱えた患者さんに対して歩行訓練や筋力トレーニング等を行い基本動作の自立を目指します。また、スポーツ選手や復職希望の方などには、競技や職場復帰のための支援を行います。また治療では様々な機器を使います。例えば、歩行器や松葉杖等の歩行補助具や電気刺激機器、超音波機器等の物理療法機器があります。

私たちの仕事の場は、病院で入院患者さんのリハビリを行う他、介護施設や支援学校、行政、スポーツチーム、企業など様々な場所で働いています。対象となる方も疾病により障害を持つ方、子ども達、スポーツ選手、ご高

齢の方など様々です。

私はこの仕事を10年続けていますが、毎日が勉強と試行錯誤の日々です。しかし、治療の中で長い間立てなかった・歩けなかった患者さんが“立てた”“歩けた”場面に立ち会えた時は今でも感動しますし、患者さんから「ありがとう」と言ってもらえることが何よりのやりがいです。

理学療法士 松浦 陵平



理学療法士の仕事

管理栄養士さんの

オートミールの簡単レシピ②

レンジで簡単！オートミールの卵雑炊

管理栄養士 川戸 菜緒

●材料(1人分)

- ・オートミール……………30g
- ・水……………200ml
- ・白だし……………大さじ1
- ・卵……………1個
- ・かつお節……………適量
- ・青ねぎ(小口切り)… 適量

●作り方

- ①耐熱容器にオートミールを入れ、水、白だしを加える。
ふんわりとラップをかけ、電子レンジ(600W)で2分30秒加熱する。
- ②卵を割りほぐし、①の上から細くまわし入れる。
ふんわりとラップをかけ、電子レンジ(600W)で1分加熱する。
- ③さっと混ぜてから器に盛り付け、かつお節・青ねぎをのせ完成。



【オートミールの効能】

オートミールは、**食物繊維**や**ミネラル**が**豊富**で、特に食物繊維は玄米の約3倍とたっぷり含まれています。食物繊維は、便秘解消効果があり善玉菌のエサになる事で**腸内環境の改善**が期待できます。さらに、水溶性食物繊維のβ-グルカン**は糖の吸収を穏やかにしてくれるため、血糖値の急上昇を抑える効果**があります。

オートミールは燕麦(えんぱく)を粒ごと加工して作られる全粒穀物で、小麦や白米のように胚芽や種皮が取り除かれていないため、これらの部分に含まれるミネラル類をまるごと取り込む事ができます。白米の6倍、食パンの4倍もの量を含む鉄分は**貧血の予防に効果的**です。骨や歯の素となるカルシウムも比較的多く含まれています。

徹底解剖!!

生活シミュレーションエリア②

～和室スペース～

現在、琵琶湖中央リハビリテーション病院では新設された生活シミュレーションエリアの中に4.5畳分ほどの和室スペースがあります。高齢者の一軒家、集合住宅の7割が和室スペースがあるといわれており、食事・居室・客間・寝室など様々な用途で使用され、生活をしていくのに必要不可欠な場所となっている方も多いと思われます。和室で特に必要な動作としては床から立ったり、座ったりする動きです。床に座ってご飯を食べたり、布団を敷いて就寝したり、座布団に座ってお茶会したりと床からの立ち座り動作をすることにより次の行動に移れるようになります。この立ち座りができることによって和室の活用法に幅が出来、生活がより過ごしやすくなるものになると思います。脳卒中後で手足に痺れ・麻痺等の後遺症が出てしまった患者さん

や、骨折後で手足・体幹が動かしにくくなってしまった患者さんに対して発症前の個別性のある生活スタイルを送れるように和室スペースで実際に立つ・座る・布団を敷く・畳む等の動作を訓練して安全かつ安心して自宅へ退院できたら良いと考えます。

そのために私たちリハビリ療法部のスタッフが、患者さんそれぞれの生活スタイルを把握・共有してそのスタイルに合わせた動きをリハビリとして取り入れることによって、個別性のある関わりを行っていきます。

作業療法士
中山 聖士郎



『コロナの功罪』 ～病院環境を整える陰の立役者の奮闘～

3年に渡る新型コロナウイルス感染症拡大もようやく緩和ムードが進み、マスク着用が義務ではなく自由意志(一部除く)となり、感染症法上の位置づけについても、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」への移行が発表されました。

流行当初は、様々な環境整備対策を迫られました。特に患者さんをはじめ、職員を守るための飛沫対策用パーティション設置は急務でした。ところが、当時アクリルパーティションの需要が急激に高まり、価格も信じられないほど高騰し手に入りませんでした。

そこで苦心と熟考を重ね、組み立て式のパイプをホームセンターで購入して自作を決意しました。しかし、素人の自分たちには機能的に活用できるまでの知識と技術がなく、一か八かで組立パイプシステムのメーカーに相談してみたところ、偶然にも本社工場が県内(湖南省)にある企業が協力の声を上げてくださり、営業担当が当院に来てレクチャーしてくれました。この世界的な未曾有の緊急事態の中で、このような

協力を進んで下さった地域力に感謝しかありません。

こうして様々な形状のパーティション製作をしていくうち、次第に自分たちの技術も高



まり、他に今まで頭を悩ませてきた施設環境設備に転用できるのではないかとアイデアが湧いてきました。

まず着手したのは、午前の外来リハビリから午後のデイケアへの環境転換時のイス移動です。スペースを取っていた重く、かさばる大量のイス移動はスタッフの時間と体力を大きく消耗させていました。これをスムーズに行えるよう、機能的な台車を製作しました。他にも、現在製作中の組み立てパイプシステムの自作があります。どれも自信作で施設環境整備に大いに役立っています。それらはまた次の機会にご紹介したいと思います。

当院を利用して下さる患者さんやスタッフが日々、リハビリテーションに集中してより良い生活を送っていただけるよう今後も施設環境設備に尽力していきたいと思ひます。

事務 坂口 武

部屋いっぱい
のイスを
自作専用台車
ですっきり
収納!!



**出前
講座**

お茶の間教室「はつらつサロン」

●富士見台五区自治会の皆さんと●

～「楽しもう」を合言葉に～

「楽しもう」これは、私たちチームの合言葉です。はつらつサロンが始まると、まずは私たちが夢中になって楽しんでいきます。そして、それはご参加いただいた皆さんにも感染して『楽しいサロン』を全員で作ります。最近では心の重苦しい感染症の話題ばかりですが、楽しみの感情の感染は素敵な時間と空間を作り上げ、皆さんの笑顔と笑い声の相乗効果で、温かく優しいひと時を作り出してくれます。

富士見台五区自治会の皆さんとは、通算三回目のサロンで、毎回育ち、膨らんでいく『楽しい』気持ちで皆が一体となります。



はつらつサロン終了後には、ご参加いただいた皆さんからアンケートをとり、皆さんの声を次に活かせるようにチーム内で分析しています。その中で「今日も楽しかったです」という言葉の他にも、直接「朝から気分が落ち込むことがあったのですが、サロンで笑っているうちに忘れることができました。ありがとう」とのお言葉をいただきました。思ってもみない、ありがたいお言葉に「こちらこそ、ありがとうございます!!」と背筋が伸びる気持ちでした。

春の足音近づく3月16日、富士見台五区自治会館の膨らんだ桜のつぼみの下、今回も温かい笑い声が響いていました。

ご参加いただいた皆さん、素敵な時間をありがとうございました。

社会福祉士 上嶋 美由紀



【病院理念】

慈(めぐみ)の源「マザーレイク」のように、私たちは地域の皆さまの心と体のよりどころとなるよう努めます。

【基本方針】

1. すべての職種が協働し、生活を支えるリハビリテーションの実践に最善をつくします。
2. 患者の意思を尊重し、科学的根拠と倫理観に基づき、安全と安心の医療を提供します。
3. 医療・介護・福祉連携を推進し、地域包括ケアシステムの推進に貢献します。
4. すべての職種のたゆまぬ研鑽により、質の高いチーム医療をめざします。
5. 人材の育成に努めるとともに、職員が働きがいと充実感の持てる職場づくりをめざします。

●第10回慢性期リハビリテーション学会 発表(ポスター)

慢性脳卒中患者における圧力波治療器の痙縮改善効果検証

～過去の当院のボツリヌス療法の結果と比較して～

理学療法士 松浦 陵平

				月	火	水	木	金	土
午前	9:00	1 診	大野	坂口(知)	坂口(知)	坂口(知)	内科		
		2 診	清水	清水	清水	清水			
	12:00	3 診	松岡	リハビリテーション科		松岡	山本		
	整形外科	整形外科	脳神経内科						
午後	13:30	2 診	清水			清水			
	14:30		リハビリ新患			リハビリ新患			

※リハビリテーション科、整形外科は予約制となっております。☎(077)526-2131(代)
※月曜日・水曜日午後のリハビリテーション科は新患のみとなっております。

♪あしあと♪

サロンでお出会うAさんとは野球仲間です。“野球仲間”と言っても観戦専門で、お互いの好きなプロ野球チームが勝った負けたと顔を合わせるたびに話します。ちなみにAさんの好きなチームと私の好きなチームは現在、最下位争いで、なんだか妙な団結力が芽生えてきました。勝っても負けても笑って話せる、明日も顔を見るのが楽しみです。(健康福祉事業課)